

市民見学会 古川徳一さんの農園訪問

市民見学会を9月4日に実施し、45人が参加しました。

今年は市の施設であるクリーンセンターと最終処分場（埋め立て処理場）、下水処理センター「あしる」に加え、隣町の長沼町マオイの丘にある当会会員の古川徳一さんの農園を訪問しました。

今年で81歳になる古川さんは、長年生ごみの堆肥作りの普及に努め、自らも堆肥化を実践してきました。約600坪の畑にトマト、トウキビ、プルーンなどを栽培し、収穫後の作物の残さはすべて押し切り器で裁断して米ぬかと混ぜ、堆肥にしています。

その作業の徹底ぶりと環境にかける思いは他の人たちの追従を許さず、会員をはじめ古川さんを知る人たちは心底、敬服しています。



収穫したトマトやトウキビは、老人ホームや社会福祉施設に無料で提供しているといいます。

ところが今年はアライグマによる被害が大きく、栽培したトウキビ1600本のうち1200本が食われてしまったといいます。

見学会ではこの被害についてと農園づくりを始めたいきさつや堆肥づくりを説明し、トウキビを焼いて参加者にふるまいました＝上の写真。ミニトマトも参加者に摘んでもらいました＝左の写真。



マイクを持って説明する古川さん



捕獲したアライグマ



段ボール箱堆肥作り講習会開催



段ボール箱を使った室内でもできる堆肥作りの講習会を11月23日に広葉交流センターで、24日に虹ヶ丘会館で開きました。それぞれ16人と6人が参加しました。講師の松下和子さんと増田譲さんが丁寧に説明し、実際に段ボール箱に基材と生ごみを入れてみせました＝左の写真。参加者たちからは「部屋のどこに置けばいいのか」「水の分量はどのくらいか」などの質問が相次ぎ、食い入るように見入っていました。増田さんは土のう袋も加えた堆肥づくりを自宅で行い、その堆肥も会場で披露して関心を呼んでいました。

今年も残すところ1週間になりました。あっという間の1年だった。そんな思いでいる方も多いのではないのでしょうか。しかし9月の地震による大曲並木地区の液状化被害は深刻で、今も大変な思いをされている会員の方もいらっしゃいます。なにか手助けになることはないか、と思います。来年はいよいよ元号が変わります。良い年になりますように。